

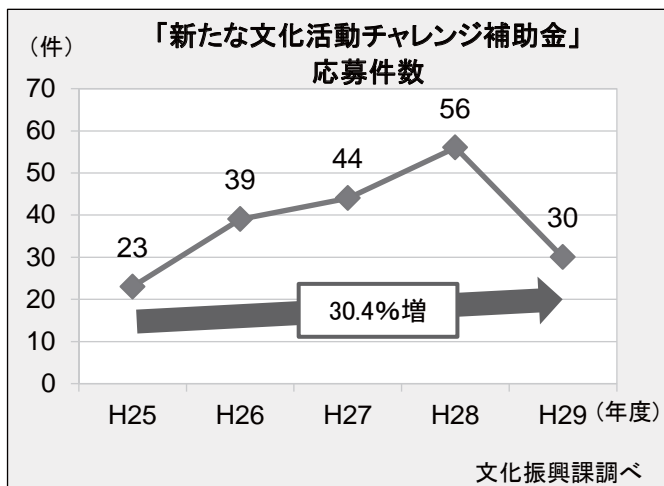
5 文化の振興

目指す姿

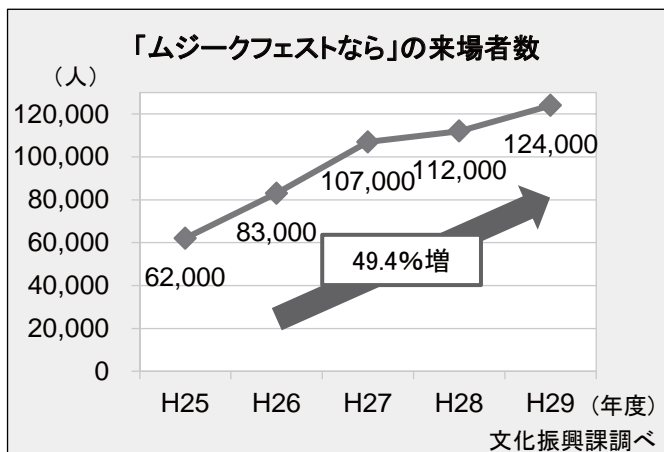
「奈良県文化振興大綱」に基づき、本県らしい個性あふれる文化振興施策を推進し、「歴史と芸術が息づく、心豊かな文化の都・奈良県」を目指します。

主担当部局(長)名
地域振興部長 山下 保典

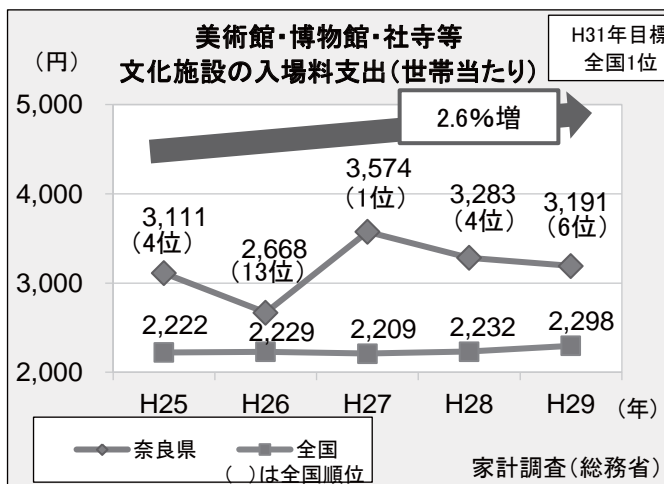
1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	平成33年度までに、芸術・文化を行う県民の割合を全国1位にします。(H23年度:2位)
成果	県民が芸術・文化に親しむ機会の創出を目的として、県内の文化・芸術団体の優れた取組に対して支援する「新たな文化活動チャレンジ補助金事業」を実施したこと等により、県民が芸術・文化に親しむ機会創出を図ったものの、芸術・文化を行う県民の割合は、全国2位(H23年度)から全国5位(H28年度)に下がりました。

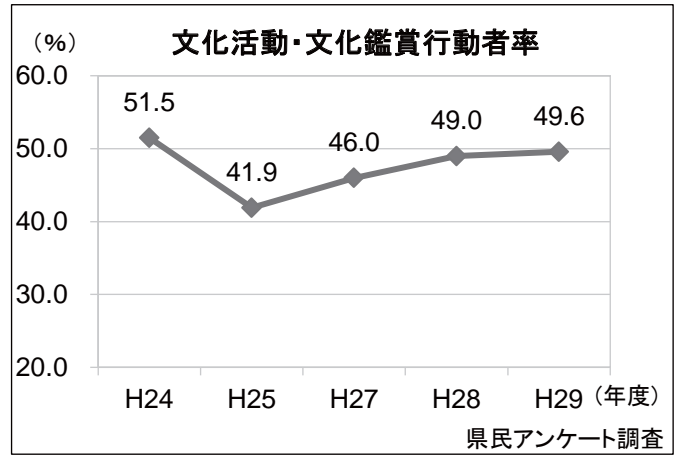
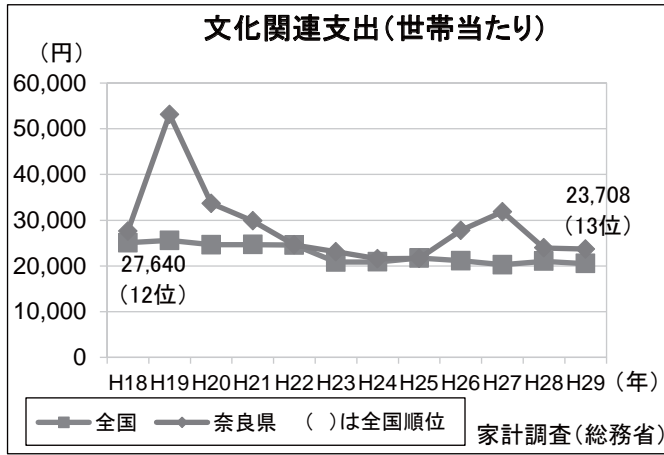


目標	平成31年度までに、文化関連支出(世帯当たり)を全国10位以内にします。(H26年度:14位)
成果	「ミュージックフェストなら2017」「奈良・町家の芸術祭はならあと2017」等の文化関連イベントを開催し、県民が文化活動を行うきっかけを提供したこと等により、文化関連支出(世帯当たり)は全国13位(H29年)と高い水準を維持しています。



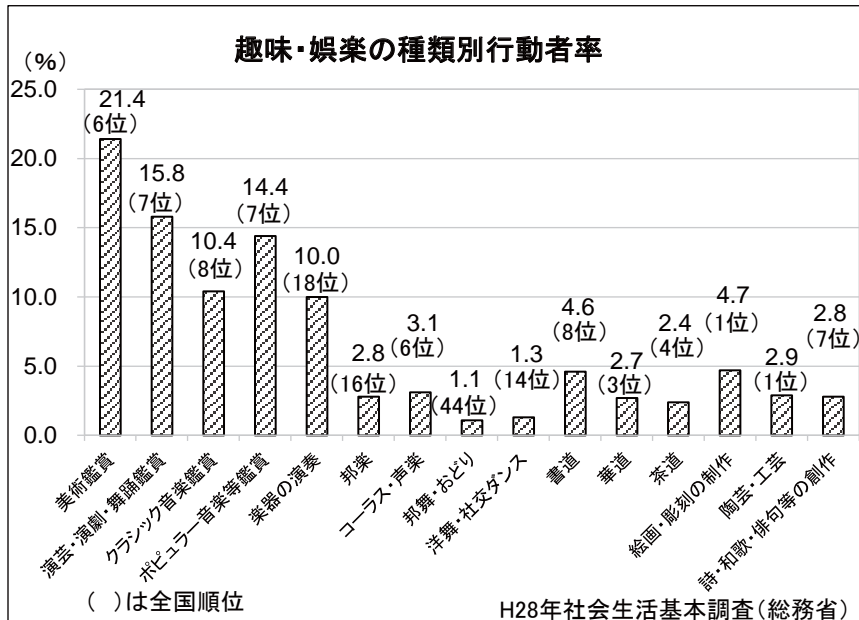
目標	平成31年までに、美術館・博物館・社寺等文化施設入場料支出(世帯当たり)を全国1位にします。(H24年からH26年平均:3位)
成果	県立文化施設での質の高い展示や企画展の実施等により、文化施設の入場料支出(世帯当たり)は全国6位(H29年)と高い水準を維持しています。

2. 現状分析

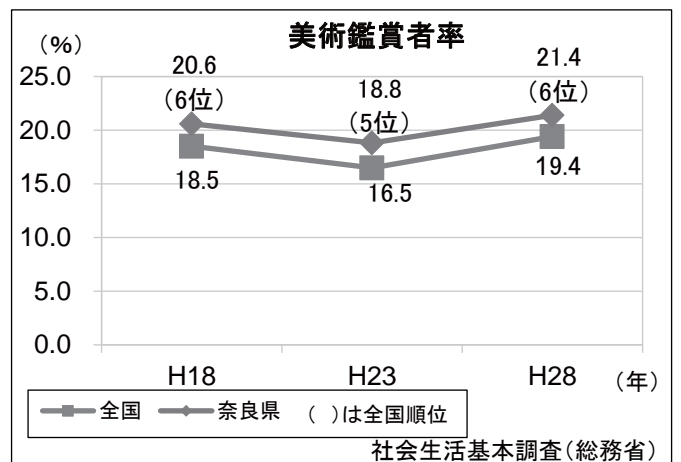
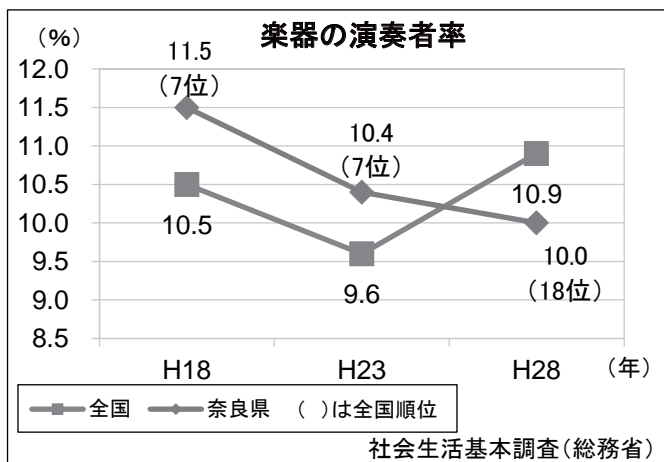


文化関連支出(世帯当たり)は、平成18年と比較して3,932円減少していますが、全国平均を上回っています。(→戦略1)

文化活動・文化鑑賞行動者率は49.6%と高い数値になっています。(→戦略1)



・趣味・娯楽における文化芸術を行う割合は、全国と比較し高い水準です。
 ・美術鑑賞は全国6位、華道は全国3位、茶道は全国4位、絵画・彫刻の制作、陶芸・工芸は全国1位と全国順位の高い分野が多くなっています。(→戦略1)



楽器の演奏者率は、平成18年と比較して1.5ポイント低下しており、全国平均を下回っています。(→戦略1)

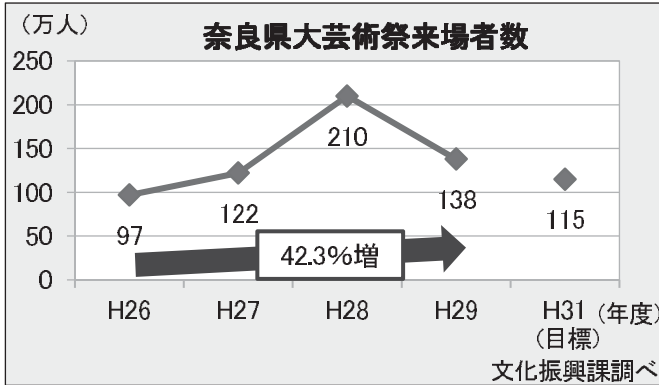
美術鑑賞者率は、平成18年と比較して0.8ポイント上昇しており、全国平均を上回っています。(→戦略1)

3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 気軽に芸術文化に親しみ、参加する機会や人々が集い、交流を深める場を創出します。

主担当課(長)名 文化振興課長 桐田 健吾

戦略目標	①平成33年度までに、県民アンケートにおける文化活動または文化鑑賞を行った県民の割合を55%に高めます。(H28年度:49%) ②平成33年度までに、県民アンケートにおける観光やリクリエーションのために県内各地を訪問する目的を「美術鑑賞・展覧会等、演劇・コンサート鑑賞」とする県民の割合を15%に高めます。(H28年度:11.1%) ③平成31年度までに、奈良県大芸術祭の来場者を115万人に増やします。(H26年度:97万人) ④平成31年度までに、県民アンケートにおける「ムジークフェストなら」の周知度を50%以上に高めます。(H26年度:21.9%) ⑤文化・芸術活動を行う団体や個人への支援を進めます。
------	---



目標	平成31年度までに、奈良県大芸術祭の来場者を115万人に増やします。(H26年度:97万人)
成果	「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」の開催とあわせて、広報活動をより充実したことにより、奈良県大芸術祭への参加イベント数は前年度と比べて48催事の増加となり、来場者数は前年度より減少したものの、平成31年度目標の115万人を超えました。

主な取組指標等

奈良だからこそできる音楽祭の開催(①,④)		
「ムジークフェストなら」の来場者数		
38千人 (H24年度)	3.3倍	124千人 (H29年度)

奈良の魅力を高め県民の参加の拡大を図る芸術祭の開催(①,③)		
奈良県大芸術祭のイベント催事数		
398催事 (H26年度)	2.0倍	808催事 (H29年度)

上質な芸術文化に触れる機会の提供(①,④)		
県立美術館での展覧会催事数		
6催事 (H24年度)	33.3%	4催事 (H29年度)

文化・芸術活動を支える人材の育成(⑤)		
県立ジュニアオーケストラの団員数		
44人 (H24年度)	31.8%	58人 (H29年度)

文化芸術団体や個人が行う発表の場の拡充(①,③)		
「奈良・町家の芸術祭はならあと」出展作家数		
60組 (H23年度)	6.7%	56組 (H29年度)

文化芸術団体への支援の拡充・強化(⑤)		
「新たな文化活動チャレンジ補助金」の応募件数		
29件 (H24年度)	3.4%	30件 (H29年度)

数値で表せない成果

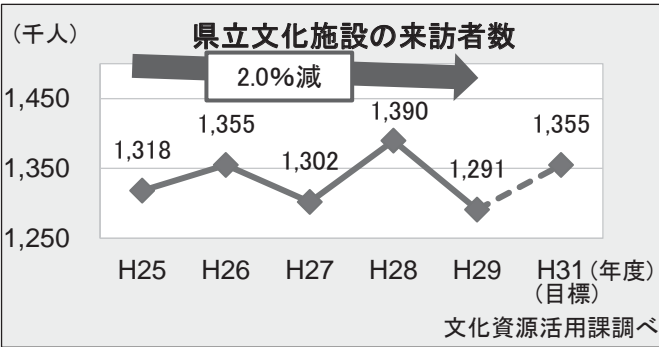
平成29年秋に「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭」を全国で初めて一体開催し、県内全域において800を超える事業が展開され、県内外から142万人の参加がありました。(平成30年9月～11月 両祭典の成果を継承し、「奈良県大芸術祭」と「奈良県障害者大芸術祭」を一体開催)(①,②,③,⑤)

「奈良・町家の芸術祭はならあと」を通じて、地域に関心を持つ地元住民が増え、新しいまちづくり団体の創設や、団体への若手メンバーの加入が進みました。(平成30年9月 第8回目の「奈良・町家の芸術祭はならあと」を実施予定)(①,②,③)

戦略2 歴史を通して文化への理解を深め、奈良に住まうことへの誇りと文化継承の機運を醸成するとともに、地域の振興を図ります。

主担当課(長)名 文化資源活用課長 建石 徹

戦略目標	<p>①平成33年度までに、住みたい理由として、「世界遺産や文化財等が多く、歴史的な雰囲気を感じるから」と挙げる県民の割合を40%に高めます。(H28年度:35.9%)</p> <p>②県民の身近な生活に関する項目の満足度として、「文化遺産や史跡が大事にされていること」の平均点数3.5点以上を維持します。(H28年度:3.58点)</p> <p>③平成33年度までに、奈良県歴史文化資源データベースのアクセス数を年間30万件以上に高めます。(H28年度構築)</p> <p>④平成31年度までに、県立文化施設の来訪者数1,355千人を目指します。(H25年度:1,318千人)</p>
------	---



目標	平成31年度までに、県立文化施設の来訪者数1,355千人を目指します。(H25年度:1,318千人)
成果	平成29年度の県立文化施設の来場者数は1,291千人と、イベント時の悪天候や施設工事による休館等の影響により、平成31年度目標の1,355千人には至りませんでした。

主な取組指標等

歴史文化資源の整備・活用の推進(①)		
補助金を通じた整備・活用への支援数		
14件 (H24年度)	↓ 7.1%	13件 (H29年度)

記紀・万葉プロジェクトの推進(①)		
補助金を通じた推進への支援数		
20件 (H24年度)	→ 増減なし	20件 (H29年度)

地域の歴史を大切にする機運の醸成(①,②)		
難解で貴重な古文書を読むことができる人材の育成者数		
52人 (H26年度)	↑ 2.4倍	125人 (H29年度)

数値で表せない成果

平成29年12月に、文化芸術振興の拠点である(仮称)奈良県国際芸術家村の整備について、平成32年度中の完成に向け、造成工事に着手しました。(平成32年度 完成予定)(①,②)

文化財修復等の担い手を育成するため、ACCU(ユネスコ・アジア文化センター)文化遺産保護協力事務所が行う国内外の技術者研修等の各種取組を行いました。(平成30年9月 アジア太平洋地域の文化遺産保存修復の専門家を招く専門研修を実施予定)(①,②)

奈良の仏像海外展示について、2019年のフランス・ギメ東洋美術館(2019年1月～3月開催)、英国・大英博物館(2019年10月～11月開催)での開催に向け、開催館との交渉を進めるとともに、平成30年1月に、有識者や所有者、メディア等幅広い分野と連携して事業を推進するため、「奈良の仏像海外展示推進協議会」を立ち上げました。(①,②)

4. 平成31年度に向けた課題の明確化

＜政策目標達成に向けた主な進捗状況＞
「ムジークフェストなら2017」「奈良・町家の芸術祭はならあと2017」等の文化関連イベントを開催し、県民が文化活動を行うきっかけを提供したこと等により、文化関連支出(世帯当たり)は全国13位(H29年)と高い水準を維持しています。

＜戦略目標達成に向けた主な進捗状況＞
平成29年度の県立文化施設の来場者数は1,291千人と、イベント時の悪天候や施設工事による休館等の影響により、平成31年度目標の1,355千人には至りませんでした。

＜奈良県の持っている強み＞
1 学習・研究で「芸術・文化」を行う県民の割合が12.9%で、全国で5位
2 趣味・娯楽で芸術鑑賞・文化芸術を行う県民の割合が全国的に見て高い分野が多い
3 文化芸術活動に関する家計支出額が全国的に見て高い分野が多い
4 人口100万人あたりの博物館数が全国12位
5 3つの世界遺産をはじめとして文化遺産が豊富
6 コンサート等を開催できる世界遺産が所在(東大寺、薬師寺等)
7 平成30年7月1日現在、国宝202点、うち建造物については全国最多の64点の全国有数の文化財の所在を誇る

＜奈良県の抱えている弱み＞
8 多くの観客を収容できる施設が少なく、トップアーティストの招聘が困難
9 文化活動発表の場が少なく、アーティストは県外に活動拠点を求める傾向
10 県立の文化施設が老朽化

＜奈良県への追い風＞
a 景気回復による文化関連消費の増加への期待
b 歴史的な町並み等の文化的景観が多くの人に見直されつつある
c 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催
d 文化振興大綱の策定
e 「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」のレガシーの継承

＜奈良県への向かい風＞
f 著名なアーティストや作品は大都市での公演、展示に集中する傾向

＜強みで追い風を活かす課題＞
【重要課題】奈良の魅力を高め県民の参加の拡大を図る芸術祭の開催(2,3,a)
【重要課題】文化における国際交流や国際貢献の推進(5,7,c)
【重要課題】(仮称)奈良県国際芸術家村の整備(1,2,3,5,7,a,b,d)
・本県の強みである歴史文化資源活用分野と芸術文化振興分野に力点を置いた施策の推進(1,2,3,4,5,6,7,a,b,c,d,e)
・文化芸術活動を支える人材の育成(1,3,a,e)

＜強みで向かい風を克服する課題＞
【重要課題】奈良だからこそできる音楽祭の開催(2,3,6,f)
・文化芸術団体への支援の拡充・強化(2,3,f)

＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞
文化芸術団体や個人が行う発表の場の拡充(9,10,a,e)

＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞
県立文化施設の整備・改修等(8,10,f)

5. 平成28年度の評価を踏まえ、平成30年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
文化芸術団体への支援の拡充・強化(戦略1)	平成23年度から実施してきた「新たな文化活動チャレンジ補助金」は、文化芸術活動の裾野の広がりへの一定の成果が見られるなど、当初の目的が達成されたことからこれを廃止し、「国文祭・障文祭なら2017」の開催を契機として、官民が協働してそのレガシーを継承し、奈良の文化力のより一層の向上を図るための新たな支援制度として、「未来へつなぐ文化活動ステップアップ補助金」を創設しました。

6. 重要課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
奈良の魅力を高め県民の参加の拡大を図る芸術祭の開催(戦略1)	「奈良県大芸術祭」と「奈良県障害者大芸術祭」を一体開催し、障害の有無や年齢にかかわらず誰でも楽しめるような催しを展開することにより、県民の芸術文化活動の裾野の拡大を図るとともに、文化を奈良のブランドとして力強く発信します。
文化における国際交流や国際貢献の推進(戦略2)	類いまれなる文化資源である県内の仏像をヨーロッパの著名な美術館や博物館で展示することにより、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、「日本のはじまり奈良」を世界に向けて発信し、誘客につなげます。
(仮称)奈良県国際芸術家村の整備(戦略2)	(仮称)奈良県国際芸術家村を核とした文化芸術の振興により、県民生活に文化芸術が溶け込み、守り育むことへの理解を広げるとともに、次の文化芸術の担い手の育成を図ります。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
奈良だからこそできる音楽祭の開催(戦略1)	「ムジークフェストなら」では、社寺等と連携した奈良ならではのコンサートに加え、幅広い世代に音楽に触れてもらう機会を提供することにより、文化芸術活動の活性化を図るとともに、誘客を促進します。